

10月下旬頃より、調査はM区大手道付近（歴史館へと登る階段右手）に及んでいます。大手道はお城のメインルート、本丸の正面玄関にあたる、「城の顔」の部分です。昨年度の調査（階段左手側）でも、大手道を形作るために複雑かつ精緻な工事が行われたことが判明しています。



今回の調査で、大手道の頂上に向かって右手に写真のような石を切り立てた部分が確認されました。これは、山本来の岩盤を、石の目に沿って掘削し、極めて滑らかに仕上げているもので、これまでの調査では見つかっていない、一種異様な外観です。

# は つ つ か わ ら 片 反

第8号

20121109

## 「石の壁」出現！

かつて岐阜城を訪れ、信長に面会した宣教師ルイス＝フロイスは、岐阜城の山頂に「石の壁」があると本国に報告しています。（下記参照）

今回見つけたこの岩盤加工の痕跡は、岐阜城にあったとされる「石の壁」の原型かもしれません。



「～宮殿は非常に高いある山の麓にあり、その山頂に彼の主城があります。驚くべき大ききの裁断されない石の壁がそれを取り囲んでいます。第一の内庭には、劇とか公の祝祭を催すための素晴らしい材木でできた劇場ふうの建物があり、その両側には、二本の大きい影を投ずる果樹があります。広い石段を登りますと、ゴアのサバヨのそれより大きい広間に入りますが、前廊と歩廊がついていて、そこから市の一部が望めます。～」

松田毅一・川崎桃太訳

「完訳フロイス 日本史2 織田信長篇2」中公文庫2000より引用